

(4) 石川・富山・岐阜県に分布する彫刻石棒

「石棒のふるさと」とおもわれるかのように、日本最古の石棒・日本一の大きさ・形状を誇る石棒が出土している南佐久郡には、石棒に彫刻が施されたものは皆無である。県下においては、大矢昌彦氏の集成によると諏訪地方で8例程あるという。しかし、第85図に示した富山・石川・岐阜県に分布している彫刻とは異なり、No11のように鐙がつくり出されているのみの簡単なものであるが、北陸地方とのなんらかの相関関係があったと考えられる。

彫刻石棒は、「中期中葉の所産である。」とされている。(1986、小島俊彰) 印刻文様は主に玉抱三叉文や三叉文、V隆帯などがあり、「石棒本体は男性生殖器」「石棒に彫刻されている玉抱三叉文や三叉文あるいはV状隆帯などの文様は、女性器を表現したものであろう」「2段目鐙は交接行為を表現しているのであろう。」「彫刻石棒は男女両性を表現したものの。」(1986、小島) という研究が提示されている。玉抱三叉文は、本遺跡出土の土器文様にも施文されている。この文様の分布は全国的な広がりがある。

鐙をもつ石棒を追って、新潟・富山・石川県へと旅した。縄文文化の中心は長野県という概念を強く持っていたが、これらの県の出土遺物を実見したところ、その文化の素晴らしさに驚いた。日本海という海の交通を改めて見直す必要性を強く感じると共に、自己の勉強不足を改めて思い知らされた。

(島田 恵子)

第4表 石川・富山・岐阜県出土の彫刻石棒一覧表

型式	番号	出土遺跡	彫刻と面数	鐙数	現在長cm	最大径cm	先端凹	石材	所有者	文献など
I型	1	富・氷見市大境洞窟	玉だき三叉文 4	2	完95	20	有	砂岩	東大人類学教室	[1922大村]
	2	石・金沢市(?)	玉だき三叉文 4	2	37	15	有	砂岩	河村義一	
	3	富・福光町大神	玉だき三叉文 3	2	再49	15	有	安山岩	福光町図書館	[1972小島]
	4	富・宇奈月町愛本新	玉だき三叉文 1	1	25	11	無	砂岩	小森正男	[1967佐渡]
	5	富・庄川町松原	玉だき三叉文 4	1	26	11	無	凝灰岩	庄川小学校	[1974富山県教委]
	6	富・立山町稚子塚古墳	玉だき三叉文 4	2	再33	14	有	安山岩	北部小学校	[1965中口]
II型	7	岐・宮村水無神社辺	三叉文 4	2	31	12	無	安山岩	水無神社	
III型	8	岐・高山市江名子泉水	V隆帯 1	2	再48	21	有	安山岩	森八幡社	[1936石黒]
	9	富・福光町古館	V隆帯 1	2	完70	11	無	砂岩	石 清作	
	10	富・立山町下瀬戸	V隆帯 1	1	完70	16	無	安山岩	加藤清太郎	
IV型	11	富・大山町稗田		1	完33	9	無	花崗岩	富山県教委	[1936早川]

(小島作表より)

- 参考文献 1. 富士見町教育委員会 1978 「曾利遺跡」 2. 川上村教育委員会 1987 「三沢遺跡」
3. 臼田町教育委員会 1992 「臼田町の文化財」 4. 佐久町教育委員会 1991 「佐久町の文化財」
5. 大矢昌彦 1976 「石棒の基礎的研究」長野県考古学会誌
6. 小島俊彰 1976 「加越能飛における縄文中期の石棒」金沢美術工芸大学学報 第20号
7. 小島俊彰 1986 「鐙をもつ縄文中期の大型石棒」大境第10号
8. 長野県教育委員会 1974 「茅野市・原村その1・富士見町その2」中央道報告書
9. 小海町教育委員会 1992 「小原遺跡」